

科目名	中小企業論特講	担当者	コバヤシ 小林 セイジ 世治	期間	通年	単位数	4
-----	---------	-----	----------------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目的	日本の企業の多くは中小企業である。所属する地域と産業において、「異質多元」と呼ばれる多様な存在形態をもち、個性的な役立ちをなしている。しかし、大企業と比較すれば量的規模だけではなく質的な差異＝格差をもち、それらと対等ならざる関係を強いられている。さらに、「グローバル化」などさまざまな経済環境の激変にさらされ、個々の経営努力のみでは容易に解決のつかない課題を抱えている。こうした日本の中小企業の現状をトータルに捉える視座を得るのが目的である。		
到達目標	前期：中小企業の定義から始まって、日本経済発展の中での位置づけを踏まえ、最近の変化それぞれに対応すべき課題を明らかにする。とくに大多数を占める小規模企業については、中規模以上企業との関係性から、その存続・発展の可能性を考える必要がある。 後期：21世紀・日本経済が抱える課題に対して、中小企業がどのような役目を果たしうるか、その可能性を探る。とくに小規模企業を中心に、地域・市民社会における経済アクターとして、さまざまな働きが期待されている点に注目しよう。		
学修方法	日本の中小企業に関する、入門的テキストによる「学習」を踏まえ、最新の資料である『中小企業白書』の「分析」を試みる。つぎに、今後の中小企業の可能性を展望した諸論考を検討することにより、みずからの政策的視野を広げる。 レポートの課題は上記それぞれの学修段階で異なるが、「成績評価」の項で示した評価基準に従い、最初の準備から最後の推敲まで、しっかりしたプロセスを踏んで作成すること。		
スケジュール	前期：教材1のレポート課題（1）の草稿は7月末、課題（2）の草稿は8月末をめどに提出する。「草稿」以前の段階でも、必ず1回はメール等で相談されたい。いずれの課題も9月中旬までに最終稿を提出すること。 後期：教材2のレポート課題（1）の草稿は11月中旬、課題（2）の草稿は12月中旬をめどに提出する。「草稿」以前の段階でも、必ず1回はメール等で相談されたい。いずれの課題も2018年1月課題提出締切日までに最終稿を提出すること。		
成績評価	種別	割合	評価基準
	レポート	80%	課題に沿った論理構成か 十分に教材を読み込んでいるか 参考文献、先行研究などの検索・検討がなされているか 脚注などレポートの必要情報が正確に盛られているか 今回解明できず残された「問題」が何か、認識しているか
	平常評価	20%	最終稿までの相談
履修者への要望	まず教材それ自体をしっかり読んで、疑問点などをメモしてください。レポートの作成はその次です。 ネット検索は適切に行えば「力」になりますが、安易なコピペをすると自分の頭で考えることができなくなります。何がわかって何がわからないのか、自らはっきり区別できるようになるのが到達点です。全てがいつべんにわかった、ということは絶対ありません。何度でも読み直し考え直し、最後に、本当に「わかった」という感動を味わってください。		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	著者名： 植田浩史・桑原武志・本多哲夫・義永忠一・関智宏・田中幹大・林幸治 教材名： 『中小企業・ベンチャー企業論—グローバルと地域のはざままで[新版]』 (有斐閣, 2014年) ISBN:978-4-641-16431-4 2,400円+税
	既存の中小企業だけでなく起業・ベンチャー(第IV部)にも目配りした, バランスの良い入門テキスト。『中小企業白書』をはじめ参考資料が充実し, そうした資料分析にも触れることができる。レポート課題を行うためのモデルともなろう。
参考図書	中小企業庁『小規模企業白書 2017年版』(ホームページからダウンロード可能)
履修上のポイント	絶えず大企業と対比し, 経営学での「一般的」指針との落差を意識して, 中小企業の実態を把握するよう努める。そうした「問題性」とともに, 「発展性」や可能性にも思いをめぐらそう。
レポート課題 1	中小企業の経営上の「問題点」を, 大企業と比べた格差の原因や, 大企業との関係(その有無と内容)と関連付けて, 整理しなさい。
レポート課題 2	小規模企業の特徴を「参考図書」から探り, 教材で示された中小企業の一般的特徴と, どこがどう違い, どのような政策的配慮が必要か述べなさい。

基本教材 2	
教材の概要	著者名： 黒瀬直宏・上原聡 編著 教材名： 『中小企業が市場社会を変える～中小企業研究の社会論的転換～』 (同友館, 2014年) ISBN:978-4-496-05046-6 2,400円+税
	5つのトピックを取り上げ, 中小企業の社会的役立ちを広く「社会経済」の枠組みで示す, 試論集。中小企業が, 市場をベースとし高度に発達した資本主義のもとで, いかに採算に合わないものか, その「不合理性」が言われる。しかし逆に現在の経済システムじたいに問題はないのだろうか?
参考図書	松永桂子著『ローカル志向の時代』 (光文社新書 788, 2015年) ISBN:978-4-334-03891-5 740円+税
履修上のポイント	中小企業政策の変遷は基本教材1や, ここでの「参考図書」をみてほしいが, 中小企業とくに小規模企業が本来果たすべき役割は, 狭い市場なり営利事業の範囲で考えてはいけない。人々の「働き」や企業活動とはそもそも何であったか反省し, 政策的視座を再構築しよう。
レポート課題 1	第1章あるいは第2章を要約し, これからの研究課題——貴方自身のも一般的にでもどちらでもよい——を考えてみよう。
レポート課題 2	第3章～第5章のうち1つを取り上げ, これからの政策課題を考えてみよう。なお政策主体は, 政府(国や自治体)だけに限らない。